

平成30年度

(2018年度)

施政方針

ときめく日々が、たからもの。宝塚

平成30年(2018年)2月14日



宝塚市

目 次

1	はじめに	1
2	市政運営の基本方針	2
	(1) 命と暮らしを大切にすまち	2
	(2) 市民とともにつくる、持続可能なまちづくり	4
	(3) 創造性に満ちたまち宝塚	5
3	平成30年度予算に関する主要な施策	7
	(1) これからの都市経営	7
	(2) 安全・都市基盤	9
	(3) 健康・福祉	11
	(4) 教育・子ども・人権	13
	(5) 環境	18
	(6) 観光・文化・産業	19
4	予算規模	22

本日ここに、平成30年度（2018年度）当初予算案をはじめ、諸議案を提出しますとともに、これからの市政運営に向けての基本的な考え方と主な施策を申し上げます。

議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 はじめに

私は、本年、市長10年目の節目の年を迎えます。これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、心を新たにして市政運営に邁進^{まいしん}してまいります。

さて、我が国は、超高齢社会と言われて久しく、さらには2025年問題と言われる、団塊の世代が75歳以上となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、かつて経験したことのない社会が目の前に迫っています。現在も、医療や介護に関する様々な課題に直面しており、本市もその例外ではありません。しかし、それだからこそ、高齢者が社会の担い手となり、活躍できる社会を実現しなければならないと考えています。高齢者から子どもまで一人ひとりが幸せを分かち合え、心を通わせることのできる仲間です。私は、市民の暮

らしの中に、年齢は関係なく全ての世代を通じて心のつながりが実感できる宝塚を実現し、「宝塚に暮らす幸せ」を感じていただきたいと考えています。市民がお互いさまの精神を忘れない、人々のぬくもりを感じることでできるまちづくりを実践してまいります。

2 市政運営の基本方針

それでは、本市の新たな歩みに向けて、平成30年度（2018年度）の市政運営についての基本的な考え方を申し上げます。

（1）命と暮らしを大切にするまち

災害や事故の際に、自分の命を顧みず、見ず知らずの人の命を救うために行動した方のお話を耳にすることがあります。勇気ある行動に尊敬の念を抱くとともに、命の大切さを深く感じざるを得ません。かけがえのない命も、災害、病気、交通事故などで、いとも簡単に失われてしまうことも起こり得ます。自分には不幸が降りかかることはないと過信し、もしものときのことを考えずにいた結果、災害や事故に遭遇した際に、本来なら助かるはずだった命を失うことにもなりかねません。一つしかない命を守る

ためにも、市民に防災についての意識を高めてもらうことが大切です。現在も地域を中心として、防災に関する多くの取組が行われていますが、今後も市民、行政、関係団体が一体となって、いつ起こってもおかしくないと言われる南海トラフ地震などに備え、災害に強いまちづくりを着実に進めてまいります。

また、人はいつ病気や思わぬ怪我をするかもしれません。そんな時、安心して受診できる医療体制が整っていることはとても重要なことです。地域の医療機関と市立病院が連携することで、地域完結型医療の信頼感が生まれ、市民が安心して暮らせるまちづくりを推進します。

交通事故は、少しの気の緩みが引き起こすことが多く、日々の私たちの幸せな暮らしを一瞬にして壊してしまふことがあります。加害者にならないことはもちろんのこと、被害者にならないためにも、交通ルールやマナーを守るための啓発活動などを通じて交通事故の防止に努め、安心で安全なまちづくりを進めます。

こうした命と暮らしを守る取組は、私が市長就任以来一貫して進めてきたことであり、今後も引き続き

き取り組んでまいります。

(2) 市民とともにつくる、持続可能なまちづくり

少子化・高齢化が進行する現代社会ですが、本市も同様に、年少人口、生産年齢人口は減少の一途を辿^{たど}っている一方で、65歳以上の高齢者人口は伸び続け、昨年12月には、その割合が27%にも達しようとしており、過去最高となりました。大きな社会構造の変化の中で、多様化する全ての市民ニーズを行政サービスだけで担うには難しい時代となっています。行政サービスと言えるものがほとんどなかった時代は、「道普請」という言葉があるように、地域住民で道を作るなど、相互扶助の考えに基づいてコミュニティが形成されていきました。

しかし明治以降、税を徴収する代わりに行政が公共サービスを担う仕組みになるに従い、長寿社会の実現や、公共インフラが充実するなど多くのメリットがある一方で、人々の絆は薄れ、お互いの顔が見えにくい社会が形成されていきました。

今後、より豊かな地域社会を市民の皆様とともに実現していくためには、コミュニティが活発であった頃の、主体的にまちづくりに関わる精神を現代に蘇らせるとともに、地域住民同士や行政がつながり、

共に力を合わせ、考え、行動していくことが大変重要ではないかと考えています。

本市ではあらゆる世代にやさしいまち「エイジフレンドリーシティ」に積極的に取り組んでいるところです。今後も市民同士が、困ったときには助けを求められることができ、求められたときには駆けつけられる、思いやりに満ちたまちづくりを進めてまいります。

一方で、依然本市の財政は予断を許さない状況にあります。持続可能な行財政運営を図るためには、歳入に見合った予算を将来にわたって編成していくことが極めて重要となります。日々の暮らしにおいて必要な行政サービスとは何かを考え、市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、今後も引き続き不退転の決意を持って、行財政改革に取り組んでまいります。また、将来への投資を行うことで地域活性化につなげる取組も必要です。子どもたちに引き継いでいける夢と未来のある宝塚を残していく義務が私たちにはあります。

(3) 創造性に満ちたまち宝塚

人がより豊かに生きるためには何が必要でしょうか。私は、人の心のありようがとても重要だと思っ

ています。何気ない日常の中で、路傍に咲く一輪の花に心癒され、美しいと感じる感性は、芸術作品に接して感動できる心に通じています。文化芸術に接して楽しめることは、人生に潤いと深みをもたらし、その人の人生をより豊かなものとしめます。そんな心を育てる環境が、宝塚にはあります。文化芸術のまちとして、宝塚歌劇は100年の歴史を超え、その人気は衰えることなく、多くの観客を魅了し続けています。本年生誕90周年を迎える手塚治虫さんは、宝塚で過ごした多感な時期の経験を基に、多くの名作を生みました。今なお、それらの作品は時代を越えて感動を与え続け、未来を見てきたかのような先見性に溢れた作品群には目を見張るものがあります。今を生きる子どもたちには、本市に流れる文化芸術を愛する風を感じて、人生の糧にしてほしいと考えます。そのためには、本市の代表的な文化芸術だけでなく、子どもたちに多くの芸術作品に触れる機会を創出し、自らも創造することのできる人間として成長し、自尊感情を育める場を提供します。また、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も全ての人が文化芸術に接することで、新たな交流も期待されます。文化芸術を通じて新たな魅力と価値を

生む、創造性に満ちたまちづくりを目指します。

3 平成30年度予算に関する主要な施策

それでは、第5次総合計画の6つの分野に沿って、平成30年度（2018年度）の主要な施策について申し上げます。

（1）これからの都市経営

まず、これからの都市経営につきましては、「第6次宝塚市総合計画」の策定に向け、計画の期間や構成などの基本的な考え方をまとめた策定方針の作成や、市民意識調査などを実施します。

協働のまちづくりでは、地域ごとのまちづくり計画の見直しに向けて、多くの市民の皆様との議論を大切にし、まちの将来像と基本目標のとりまとめなどを進めていく予定です。この計画の見直しを支援するため、市職員が地域に出向く体制を構築するなど、市民との対話を重ねます。また、見直し後の地域ごとのまちづくり計画については、「第6次宝塚市総合計画」の一編として位置付けることを検討し、地域自治に係るしっかりとした基礎を構築してまいります。

人材育成では、ワーク・ライフ・バランスの推進

などにより、職員一人ひとりの意識改革を進めるとともに、意欲に満ちた職場環境の整備に取り組み、組織全体の活性化を推進します。

企業会計の経営においては、病院事業では、「宝塚市立病院改革プラン2017」に掲げた施策の実行によって、医療機能の向上とともに、経営改革の取組を推進します。上下水道事業では、「宝塚市水道事業経営戦略」及び「宝塚市下水道事業経営戦略」を着実に実行することで中長期的な経営基盤の強化を図ります。

また、市が保有する公共施設では、多くが建設後相当の年数が経過しており、今後、一斉に大規模な改修や建替えが必要となることから、将来的な施設の統廃合や適正な管理・保全に取り組みます。

新庁舎・ひろば整備事業については、基本設計の一部見直しと実施設計を進めており、駐車場、敷地内通路及びひろばの一部の整備工事に着手します。大型事業が重なることから、事業費の平準化を図るため、新庁舎建設工事の着手を3年間延伸することとしますが、全体整備完了に向け、引き続き、多くの人が憩い、交流できる魅力ある空間の整備に取り組みます。

本市に多くの人を呼び込むためのシティプロモーションでは、時代に即した効果的な手法で、市民との協働により実施します。

(2) 安全・都市基盤

次に、安全・都市基盤につきましては、緊急情報伝達手段として、防災行政無線設備の整備、安心メールへの登録、家庭での備蓄や家具の転倒防止など自助の取組に対する啓発や、地域での防災訓練や防災マップ作成、地区防災計画作成などの共助の取組を支援するとともに、阪神・淡路大震災の経験を風化させない取組など、防災に関する取組を引き続き市民とともに推進してまいります。

消防では、災害に強いまちづくりの実現を目指し、自主防災組織への更なる育成指導や活動に対する支援を行い、福祉施設との相互応援体制をより充実させ、市民による自助・共助の体制を進めることにより、地域主体の防災力向上を推進します。また、災害発生時に消防の支援を行う「消防サポート隊協力事業所」の登録及び連携強化を推進し、地域連携の絆を深めます。さらには、市立病院との連携強化による救急ワークステーションを基軸に、救急隊員の研修の充実や、ドクターカー運用による救命率の向

上を図ります。

防犯では、今後もプライバシーに配慮しつつ、平成31年度（2019年度）末までに、市域全域に最大280台の防犯カメラを設置し、防犯力強化に取り組めます。

交通安全では、引き続き交通安全の教育・啓発に努め、特に自転車が関係する事故や、子ども、高齢者の事故を抑制するために、自転車安全利用推進員の活動を充実します。また、「宝塚市自転車の安全利用に関する条例」の改正に向けて取り組み、市民の安全を守ります。

住宅・住環境では、「宝塚市空家等対策計画」に基づき、管理が適切に行われていない空家等の所有者に対し適切な管理を促すための啓発を継続するとともに、相談体制の充実を図ります。

道路・交通では、阪急今津線により東西に分断された武庫川右岸地区において、防災や利便性の向上を図るため、都市計画道路荒地西山線（小林工区）の早期完成を目指します。また、歩道の拡幅や歩道内の段差の改良など、全ての人により安全で快適な空間を確保します。

上水道では、安定した水源の確保に向け、阪神水

道企業団からの二次受水を開始するとともに、安定的な受水を図るため、管路などの施設整備を行います。また、小林と亀井の両浄水場は、浄水業務を停止し、経営の効率化を進めます。

下水道では、引き続き浸水被害の更なる軽減を目指し、浸水対策事業に取り組み、老朽化した武庫川ポンプ場の更新工事に着手します。

(3) 健康・福祉

次に、健康・福祉につきましては、高齢者福祉では、医療や介護が必要になった場合でも、住み慣れた地域や高齢者自らが望む場所で安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護のネットワークの強化に向けての取組を進めます。また、多職種が協働して個別ケースの支援内容を検討する、自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が、生きがいと尊厳を持った日常生活を営むことができるよう取り組んでまいります。

障がい者福祉では、市民福祉金の相当額を障害福祉基金に積み立て、より必要とされる事業に活用します。具体的には、委託相談支援事業所を2か所増やし、障がいのある人が地域で安心して生活を続けられるよう相談支援体制の充実を図ります。さらに、

就労を支援するため、障害者就業・生活支援センターの相談員を増員し、ハローワークなどの関係機関と連携した就労・定着支援体制をより強化します。また、グループホームなどの施設に対し、スプリンクラー設置費用の一部を助成することで、新規開設を支援します。このように、今後も時代とともに必要となる事業に基金を活用してまいります。

健康づくりでは、市民の健康に対する意識や取組の状況についての調査・分析を行い、その結果をもとに平成31年度（2019年度）からスタートする「健康たからづか21第2次後期計画」を策定し、市民の健康づくりを推進してまいります。

社会保障では、生活困窮者の自立を促進するため、せいかつ応援センターにおける相談支援体制の機能強化を図るとともに、引き続き生活困窮者に対し、個別的就労支援と包括的な支援に向け関係機関との連携を進めてまいります。

市立病院では、本年4月に開設するがんセンターでの放射線治療、化学療法、がん相談機能の円滑な運用を図るとともに、がんの手術療法を合わせた、がん診療の充実に取り組みます。また、地域包括ケアシステムの更なる充実に向け、地域の医療機関な

どとの連携を進め、地域医療支援病院としての役割を果たしてまいります。

(4) 教育・子ども・人権

本市の教育では、子どもたちが安心して学び、「生きる力」を育み、将来にわたって心豊かで充実した生活を送ることができるよう、子どもたちの最善の利益を何より優先する取組を進めています。

まず、学校における教育環境の整備では、適正規模及び適正配置に関する基本方針に基づき、現在、小規模化が深刻な中山台地区の適正化に地域とともに取り組んでいます。新年度から中山五月台中学校への通学区域の弾力的運用を始めるとともに、中山五月台小学校の適正化についても取組を進めてまいります。また、市立幼稚園についても、統廃合計画に基づいた適正配置を、引き続き保護者や地域のご理解をいただきながら計画的に進めます。また、仁川幼稚園と長尾幼稚園の2園においては、幼児教育の充実を図るため新年度から新たに3年保育に取り組みます。

学校園施設の整備では、校舎などの老朽改修工事を市立学校園で実施します。長尾中学校では、新屋内運動場・プール・武道場の建築工事を引き続き進

めます。また、幼稚園の保育室に空調設備を設置するとともに、学校トイレの洋式化促進に取り組みます。

学校給食では、売布小学校において自校方式による炊飯設備を整備し、おいしい学校給食を進めてまいります。

不登校では、本市でも200人余りの児童生徒が不登校になっている現実を真摯に受け止め、一人ひとりの気持ちに寄り添った教育支援を行います。また、別室登校による不登校の未然防止、適応指導教室による居場所づくりや自立への手助けなど、それぞれの子どもに合った支援の充実にも取り組みます。

いじめは、些^{ささい}細なきっかけから起きてしまうことが多いゆえに、日頃から、「いじめは許さない」という思いを強くするための取組が重要です。本市では、人権教育の充実やコミュニケーション活動を重視した特別活動を通して、仲間意識を持って互いを認め合い、尊重できるよう、子どもたちが主体的にいじめ防止に取り組む活動を進めます。小学校3年生又は4年生を対象に子どもへの暴力防止プログラムとして子ども^{キャップ}CAPワークショップを全ての小学校で実施し、いじめや暴力から自分の身を守る力を

育みます。他にも、市立学校園・保育所の教職員を対象に、いじめの事例研修会を実施し、いじめ対応能力を高めることで、いじめの根絶に取り組めます。

基礎学力の確実な定着では、特に英語教育が平成30年度（2018年度）から2年間を移行期間として小学校3・4年生に拡充され、5・6年生も授業時間数が増加します。そのため、教員への授業実践研修を計画的に実施し、指導力向上を図るとともに、英語教員経験者や、海外生活経験者など英語が堪能な地域の方や留学生にご協力いただき、小学校の英語教育の支援と充実に取り組んでまいります。

中央公民館では、昨年12月の第1期開館により既に活発な活動がなされていますが、第2期開館を来年2月に予定しており、さらに、幅広い年代の交流が深まり、活発な市民活動がなされる拠点として整備してまいります。

宝塚自然の家では、施設の利活用を図り、アスレチックの修繕などを行うとともに、地域の方々のご協力を得ながら段階的に魅力アップのための努力をしてまいります。

子育て支援施策では、誰もが子育てしやすいまちへ向けて取組を進めます。認可保育所や認定こども

園などにおいて、保育士のスキルアップへの取組を支援するほか、私立保育所における保育士の確保に向けての支援も行います。

保育施設における待機児童の解消に向けては、0歳児から5歳児までを受け入れるため、既存保育所の分園整備を行うとともに、来年4月開園を目指し、認可保育所2箇所を新設整備し、定員拡充を図ります。

放課後児童健全育成事業では、山手台小学校地域児童育成会の定員の拡充や、民間放課後児童クラブへの助成により定員確保を行い、待機児童の解消に取り組みます。

子どもの貧困の問題では、「子どもの生活についてのアンケート調査」を行った結果、本市は全国平均よりも貧困率は低いものの、経済的支援、進学への支援、ひとり親への支援などの課題が明らかになったことから、市民福祉金相当額の一部を活用し、母子・父子自立支援員を1人増員し、ひとり親世帯に対する相談体制の充実を図るほか、就学援助における新入学学用品費の支給時期を入学前に早めるとともに、支給額を増額します。

人権・同和では、「第3次宝塚市人権教育及び人

権啓発基本方針」に基づき、相談体制の充実を図るとともに、インターネット上で多く見られる差別事案に対処するなど、部落差別の解消をはじめ人権が尊重される社会づくりに取り組みます。

性の多様性では、ありのままに自分らしく生きられる社会の実現を目指し、関係団体の協力も得ながら、教育や保育現場をはじめ広く啓発活動を実施します。また、性的マイノリティについての理解を促進するとともに、他自治体と連携し、性的マイノリティが抱える社会生活上の問題の解消に取り組んでまいります。

男女共同参画では、全ての女性が個性と能力を発揮できるよう、セミナーや講演会を実施し、男女の働き方の見直しや意識改革を進めます。

平和施策では、先の大戦から72年が経過し、戦後生まれの市民が大半を占める現状を踏まえ、特に、次世代を担う子どもたちに「同じ思いを誰にもさせてはならない」という被爆体験者の声を伝えていくことを重点的に取り組みます。平和の大切さ、命の尊さを改めて認識してもらえるよう働きかけていくことが必要です。そのため、市民の皆様と協働して、様々な平和施策を実施するとともに、「核兵器禁止

条約」の早期締結を求める平和首長会議の署名活動に引き続き協力します。

(5) 環境

次に、環境につきましては、地球温暖化対策として、暮らしの中で温室効果ガスを削減する「^グ^ー^ル C O O L ^チ ^ョ ^イ ^ス C H O I C E」運動に賛同し、省エネ・節電に役立つ情報提供を行い、省エネルギー促進の更なる啓発を推進します。

再生可能エネルギーの導入では、エネルギーの地産地消を推進するために市が率先し、中央公民館、長尾中学校屋内運動場の整備において、太陽光発電設備を設置します。また、他都市からも注目されている西谷地区におけるソーラーシェアリングの取組については、導入が進むよう引き続き支援します。小水力発電の事業化についても検討を進めてまいります。

新ごみ処理施設の整備では、「宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画原案」をもとに慎重に検討を進めており、整備用地、事業方式の選定を含めた基本計画の策定に向け、引き続き取り組んでまいります。

3 霊園の運営では、近年の墓地に対する市民の考え方が大きく変化したことや、墓地形態などのニー

ズの多様化により、従来型墓地の貸出しが減少しています。このようなことから、平成30年度（2018年度）から3霊園を一体管理し、各霊園の特徴を生かして役割分担を行うことで多様な市民ニーズに対応した墓地を提供し、霊園事業の安定的な管理運営を行ってまいります。

また、本年新たに宝塚すみれ墓苑で整備を進めている合葬式墓所の貸出しを開始するとともに、引き続き長尾山霊園の再貸出しと宝塚すみれ墓苑の貸出しを実施します。

昨年設置した栄町3丁目ゆめ公園では、寒い冬空の下でも、子どもたちが楽しそうに遊び、自治会が地域防災のため活動されている姿が見られます。このように地域ニーズに沿った公園整備を進め、公園がさらに地域に愛され、コミュニティ活動の活性化にもつながる公園づくりを目指し、公園リノベーション事業を継続してまいります。

（6）観光・文化・産業

次に、観光・文化・産業につきましては、文化芸術施設・庭園整備では工事に着工し、再来年春のオープンを目指します。本市の文化芸術の発信拠点として、美術作品や絵本原画、マンガやアニメ関連作

品などの多様な企画展示や、交流スペースでの創作活動体験などを通じて、子どもたちや様々な世代の人が、文化芸術に触れ、感性と創造性を育む機会を創出します。また、本年は手塚治虫さん生誕90周年となるため、手塚治虫記念館をリニューアルし、より来館者に喜ばれるよう展示内容の充実を図るとともに、数々の偉業を後世へつなげ、宝塚の大切な文化財産として発信します。

来月18日には、待望の新名神高速道路と宝塚北スマートインターチェンジの供用が開始されます。高速道路の開通により、中国自動車道や国道176号の渋滞緩和の効果に期待しています。同時に開業する宝塚北サービスエリアでは、「宝塚 花の里・西谷」をはじめとする特産品の販売など、本市の魅力をアピールします。また、スマートインターチェンジがある西谷地域は、牡丹ぼたんやダリアに代表される花の里であることから、地域の街角に花を咲かせる活動を支援します。長谷牡丹園ぼたんにおいては、引き続き、栽培技術の向上に努め、より素晴らしい牡丹ぼたんを披露し、集客につなげます。

商工業の活性化に向けては、市内の空き店舗の利活用・新規出店を促進し、市内商業施設をはじめと

して、観光プロムナード、清荒神参道、北部地域などの賑にぎわい創出に努めます。北部地域においては土地利用規制を弾力的に運用し、飲食店などの出店を促進します。また、「創業支援事業計画」に基づき、引き続き、相談窓口の設置や起業家向けセミナー、ビジネスプランコンテストを宝塚商工会議所と連携して実施するほか、社会課題解決型のビジネスの創業を支援する「ソーシャルビジネススタートアップスクール」を開講し、起業の促進を図ります。

観光客増加の取組としましては、春に花のみち周辺を会場とした「宝塚だんじりパレード」、夏には国際的な囲碁大会である「ジャパン碁コンGRESS」、秋にはハロウィンの時期に合わせて「宝塚アニメフェスタ×ハロウィン」、冬には宝塚歌劇市民貸切公演を実施するなど、年間を通じて宝塚を満喫していただける事業を展開します。さらに、旅行商品に組み込んだ周遊パス事業を継続し、観光客に宝塚をより楽しんでいただくことで経済効果を生み、交流人口の増加を図ります。

農業の分野では、長尾地域の園芸業者を中心に、特別名誉市民である「木接きつぎ太夫」坂上さかのうえ頼泰よりやすこう公をブランド化し、市内外に広く認知していただくためのロ

ゴマークやお菓子の製作などが始まっていることから、これを支援し、本市の花き植木産業の更なる活性化につなげます。

就労支援では、シルバー人材センターなどと連携し、エイジフレンドリーシティの取組の大きな課題である高齢者の「生きがい就労の場」の創出を促進します。

4 予算規模

以上のとおり、市政運営に向けての私の基本的な考え方と、平成30年度（2018年度）当初予算案に盛り込んだ内容について、6つの分野に沿った主な施策を申し上げました。

予算編成においては、国の地方財政対策などを踏まえた財源措置を適切に行いました。

本市の財政は、引き続き厳しい状況ですが、市民の命を守り、暮らしを守るための、福祉、教育・子育てに係る施策の予算を増額しました。また、文化芸術を中心としたまちの活性化に向けて、所要の予算編成を行いました。

この結果、平成30年度（2018年度）当初予算案は、

一般会計	7 8 7 億 5 , 0 0 0 万円
特別会計（15会計）	4 6 8 億 3 , 9 9 6 万 2 千円
水道事業会計	8 8 億 4 , 0 5 2 万 9 千円
病院事業会計	1 3 7 億 9 , 0 1 5 万円
下水道事業会計	8 0 億 8 , 2 0 9 万 5 千円
<hr/>	
全19会計合計	1 , 5 6 3 億 2 7 3 万 6 千円

となりました。

最後になりますが、最近、戦前に執筆された本が脚光を浴びています。名著として知られる吉野源三郎さんの『君たちはどう生きるか』です。なぜこの本が多くの人々の心に響くのでしょうか。それは、いつの時代にも通じる本質的なことが書かれてあるからに違いありません。主人公の中学生、コペル君は、叔父さんとの対話を通じて人間的成長を遂げていきます。なかでも、「人間が人間同志、お互いに、好意をつくし、それを喜びとしているほど美しいことは、ほかにありはしない。そして、それが本当に人間らしい人間関係だ」という一文は、本市の目指すまちづくりにも通じ、これからの社会にとっても必要な価値観であると感じます。本市においても「本当に人間らしい人間関係」を結ぶことのできるまち

づくりを実現し、市民の幸せにつながるよう誠心誠意頑張ってまいります。

市民の皆様、議員お一人おひとりに心からご協力をお願いし、私の施政方針といたします。

議員各位におかれましては、慎重にご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。